

日本化学会第90春季年会 (2010) のお知らせ

第 90 春季年会実行委員会

第 90 春季年会 (2010) は平成 22 年 3 月 26 日 (金) より 4 日間にわたり近畿大学本部キャンパスにて開催いたします。春季年会は化学に関する学術の進歩普及・産業の発展及び生活の向上を狙いとして、およそ化学という言葉が包括するあらゆる学問領域や分野からの研究者が一堂に会し、日頃の研究成果を発表する場であり、その討論を通じ学術交流を奨励・促進する場でもあります。例年多くの参加者が集うこの学会は、毎年 6,000 件にも及ぶ発表がなされ今回の第 90 春季年会においてもこれまで以上の研究発表の応募を期待するものであります。

本号では通常の研究発表の募集に先立ち、特別枠として立案されている、産学連携のための企画「アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP)」、中長期間固定したテーマで継続実施しているシンポジウム「中長期テーマ」、化学分野の融合領域の創成を目的として第 2 次先端ウォッチング調査の報告を行う「イブニングセッション」を紹介いたします。

これに加え、3 時間の枠で自由にシンポジウムを企画していただく「特別企画」、会期中に日本滞在する著名な外国人研究者による「特別講演」、次世代を担う若手研究者による「若い世代の特別講演会」の募集を行いますので奮ってご応募下さい。

なお、本年会のお知らせは本誌会告欄 (8・10・11・1・3 月号) でお伝えするとともに、最新情報をウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) にて随時公開していきますのでご覧下さい。

- 会 期** 平成 22 年 3 月 26 日 (金) ~ 29 日 (月)
会 場 近畿大学本部キャンパス (東大阪市小若江 3-4-1)
実行委員長 柳 日馨 (大阪府立大学大学院理学系研究科・教授)
内 容 アカデミック・プログラム (AP: 一般研究発表) (口頭・ポスター)
アドバンスト・テクノロジー・プログラム (ATP) (口頭・ポスター)
特別講演・受賞講演・特別企画・展示会・表彰式・懇親会・市民公開講座

中長期テーマ・アジア国際シンポジウム・イブニングセッション・若い世代の特別講演
その他委員会企画ほか

重要な日程 講演申込期間 平成 21 年 11 月 17 日～12 月 1 日 詳細は本誌 10 月号
予稿原稿提出期間 平成 22 年 1 月 7 日～21 日
参加予約期間 平成 22 年 2 月 1 日～27 日 詳細は本誌 1 月号
プログラム公開 平成 22 年 2 月 22 日 (予定)
予稿集発行日 平成 22 年 3 月 12 日 (予定)

問合せ先 日本化学会 企画部 年会係
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
電話 (03) 3292-6163 FAX (03) 3292-6318 E-mail: nenkai@chemistry.or.jp
URL: <http://www.csj.jp/nenkai/>

アカデミック・プログラム (AP: 一般研究発表) の講演申込者及び講演者は原則として本会会員に限ります (アドバンス・テクノロジー・プログラム (ATP) の場合は非会員でも申込が可能です)。発表予定の方で未入会の方はお早めに当会ウェブサイト (<http://www.csj.jp/kaian/index.html>) よりご入会の手続きをお願いします。入会手続きに関しての問合せは下記までお願いします。

問合せ先 日本化学会 総務部 会員担当
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台 1-5
電話 (03) 3292-6169 FAX (03) 3292-6317 E-mail: member@chemistry.or.jp

1. アドバンス・テクノロジー・プログラム (ATP)

春季年会では化学技術分野を中心とする研究発表を通じて広く産学交流の促進を図る目的で 2005 年より「アドバンス・テクノロジー・プログラム (ATP)」を実施してまいりました。6 年目を迎える第 90 春季年会の ATP はその装いを一新します。

世界経済が混乱する中で産業界は大きな変転を図りつつあります。一方で、環境や資源・エネルギー問題に対するグローバルレベルでの新しい解決が求められています。「化学」はこのような課題に対して様々なイノベーションや進歩をもたらしています。本セッションは、当該分野の第一人者をオーガナイザーとして迎え、基礎もしくはジェネラルな導入部分に加え、「化学」が真に産業に役立っているあり様や、企業研究における最新成果の発表を行います。科学技術のさらなる進歩を促し、産業界における多様な技術の交流・融合や、アカデミアと産業界との交流・連携の強化につながり、科学技術のさらなる進歩を促します。アカデミア・産業界にとってこれまで以上に魅力あふれる場としての準備を進めています。

さらに、アカデミア・産業界双方による十分な議論の場を設け、発表者以外の多くの方にもこれに加わることができるよう、全員参加型の有用なプログラムを提供いたします。

開催日 平成 22 年 3 月 26 日 (金)・27 日 (土)

特色

- ・企業間・産学連携のための企画: 「化学の応用」、「実用化」、「事業化」
- ・企画運営: 産業界を中心とし、従来のアカデミック・プログラムとは独立の目的・内容・基準で実施
- ・発表: 既発表、特許化・製品化済みの発表、具体的な構造を明示しない発表も可能
- ・基調・招待・依頼講演の積極的な採用、パネルディスカ

ッション・ラウンドテーブル等の実施: 十分な講演時間、活発な意見交換や討論時間を確保
・プログラム: ニーズ志向、アウトプット、製品名、実用例を意識した編成

実施分野、セッション等の詳細情報はウェブサイト (<http://www.csj.jp/nenkai/>) で随時公開していきますのでご覧下さい。

2. 中長期テーマ

春季年会では、中・長期戦略に基づくシンポジウムを春季年会実行委員会と学術研究活性化委員会の合同企画として継続的に実施しております。第 90 春季年会では下記 6 件を実施予定です。

詳細は本誌 1 月号に掲載予定です。

1. 複合的食品機能の定量解析研究

企画担当者: 民谷栄一 (阪大院工)

中長期テーマである「生体分子科学の展開 (ナノバイオを含む)」では、一昨年度、昨年度の本年会においてシングル細胞の解析や *in vivo* 生体分子科学を委員会企画としてとりあげ、講演会を開催し、いずれも多くの参加者を集めた。生体と化学の接点においては、医薬分野だけでなく、食品分野も重要である。近年、健康維持との関連においても食品成分の機能性がますます重要となっている。今回の企画では、医学、農学、工学の異種分野の先端研究者が一堂に会し、食の複合的機能について分子、細胞、組織臓器、個体の生体特有の階層性を考慮し、食品機能の定量解析について議論するとともに、今後の当該分野の新展開について討論する。

2. 二酸化炭素固定化反応の新展開：基礎科学からのアプローチ

企画担当者：岩澤伸治（東工大院理工）

二酸化炭素を炭素資源として再び利用可能な形へと変換する反応の開発は、現在の我々が直面する資源・エネルギー問題に解決をもたらす可能性を秘めた重要な研究課題である。本シンポジウムでは、二酸化炭素固定化反応に関し様々なアプローチを行っている最先端の研究者を集め、その現状並びに最新の成果を紹介していただくとともに、その関連するアプローチに関し将来展望を行っていただく。

3. 天然有機化合物の全合成

企画担当者：井上将行（東大院薬）

最近10年程度の天然物の全合成に関する研究の進歩は目覚ましい。新反応と新戦略の開発は相互に影響しあい、多くの複雑な構造を持つ合成標的が化学的に初めて構築された。さらに、天然物を構造基盤とした人工化合物が設計・合成され、それらが天然物以上の活性を持つことが見だされている。本特別企画では、複雑な化合物の全合成研究、全合成に用いられる革新的反応・戦略の展開、また、天然物を凌駕する分子創出などを紹介し、天然物全合成の可能性を展望する。

4. 細胞生物学のケミカルバイオロジー—バイオイメージングを中心に—

企画担当者：菊地和也（阪大院工）

ケミカルバイオロジーの潮流には2つの大きな流れがある。1つは天然物化学や有機合成化学を主体とした生理活性に着目した流れであり、もう一方はイメージングプローブ作製による可視化解析である。これらの2つの流れは、昨年のノーベル化学賞受賞対象研究にみられるように深いつながりがある。イメージングプローブ作製の正否は分子デザインにかかっており、化学アイデアの精度が研究の成否を決めることが多い。今回のシンポジウムでは、実際の生物学に応用できるバイオイメージングプローブの作製原理と応用を行っている講演者にお話いただき、化学研究が生物学研究に与えるインパクトについて紹介する。

5. 超分子金属錯体—超分子構造から機能への展開—

企画担当者：山下正廣（東北大院理）

自然界に存在する物質（生体分子や鉱物など）や我々化学者が創出する化学物質の中で、近年「超分子」が極めて大きな役割を果たしていることは万人の認めるところである。超分子研究の歴史は古いが、最近特に生体分子をモチーフとして革新的な機能創出を目指す試みや、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの次世代技術のシーズとなる新規ボトムアップ型創製法の確立など、合成研究での進捗が著しい。超分子の中でも、特に金属イオンを含む「超分子金属錯体」は、配位結合をはじめとする結合様式の多様性のために構造的自由度が高く、より高度な超構造を構築できる最も有望な超分子材料である。この超分子材料では、金属イオンに由来する多彩な電子状態のために荷電状態やス

ピン状態、構造変化を自由に制御でき、電場、光、電気伝導、化学刺激などによる外的因子を駆使した新たな分子機能創出と自在制御が期待される。

現在我が国の創造性豊かな研究グループが世界的に注目を集める新規超分子金属錯体を次々と開発していることから、本シンポジウムではこの最もホットな「超分子金属錯体」研究で世界をリードする研究者を招聘し、最新の研究成果とその意義を講演していただく。この講演を契機として、世代を超えた多くの研究者とともに今後の化学が目指すべき超分子金属錯体の合成研究、機能研究の夢と展望を議論したい。

6. 光-分子強結合場

企画担当者：井上晴夫（首都大院都市環境）

従来の光化学の研究では、光と分子の相互作用を大きくすることは限界に近づいており、極めて少ない光子によって高効率に分子を励起するプロセスを実現することは難しい。これをブレイクスルーするためには、光と分子を強く相互作用させる「光-分子強結合反応場」を開拓することが必要不可欠である。我が国の研究者群が先導する最新の研究成果として、光子を捕捉・局在化させる機能を有するナノ・マイクロ構造を構築することにより、新しい概念に基づく太陽電池、光触媒、分子センサーなどの提案、検証がなされている。本特別企画シンポジウムでは、この新しい「光-分子強結合反応場」についてのさらなる学際領域の学理の探求とその応用技術への展開を目的に、理論・実験・応用に関して一線にいる産学公の研究者とともに集中的な討論を行う。

3. 第2次先端ウォッチング イブニングセッション

日本化学会では複数の化学関連領域にインパクトがあり、新領域への発展が期待される「第2次先端ウォッチング調査」を実施しており、その調査報告を行うイブニングセッションを春季年会で実施しております。第90春季年会では下記2テーマを予定しております。

詳細は本誌1月号に掲載予定です。

1. ゲノムケミストリー（仮題）

2. フォトメカニカル材料（仮題）

4. 「特別企画」企画案の募集

毎年、春季年会のプログラムに「特別企画」が組み込まれ好評を得ておりますが、本年会でも会員の皆様より企画案を下記要項により募集いたします。

特別企画は、3時間の枠内（9時30分～12時30分または13時30分～16時30分）で自由に企画いただけます。特別企画は原則として初日と最終日に開催することになっており、開催日及び時間帯は実行委員会が決定いたします。企画内容は下記のいずれかを満たす企画とします。なお、実行委員会では、講演者、座長の方への謝礼、旅費等のお支払いはしておりません。あらかじめお含み置き下さい。

1. 産・官・学の意見交換を積極的に行うための企画

2. 新分野・新領域の開拓に向けての企画で産業界からの参加が見込まれるもの
3. 他分野への発展を図る企画や、学際領域を積極的に開拓するための企画
4. 研究最先端のトピックスをまとめて情報提供するための企画

応募いただきました企画案は、講演企画小委員会及び実行委員会にて検討し、10件程度を採択させていただきますが、企画案によっては修正をお願いする場合があります。採択された特別企画につきましては、10月末までに最終企画書を再提出いただきます。

応募の際には中長期テーマ及びアドバンスト・テクノロジー・プログラム(ATP)のテーマと重複しないようにご注意ください。

開催日 第90春季年会会期の初日もしくは最終日

開催時間 9時30分～12時30分もしくは13時30分～16時30分

応募方法 応募用紙を春季年会ウェブサイトより入手し、必要事項をご記入の上、E-mailにてご応募下さい。

1. 企画タイトル(和文/英文/略称)
2. 趣旨文(約300字)
3. プログラム案もしくは講演者案
4. 開催予定日(平成22年3月26日及び29日)のうち、都合の悪い時間帯をお知らせ下さい。
5. 予想聴講者数
6. 予稿集掲載希望分冊
7. 企画責任者氏名、所属(官学界、産業界各1名)
8. 応募者氏名及び連絡先(勤務先所在地、電話番号、FAX番号、E-mail)

締切 平成21年9月24日(木)

応募先 日本化学会 企画部 年会係
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp
電話(03)3292-6163

5. 「特別講演」候補者の推薦について

本年会会期中に日本に滞在され、これを機にご講演(講演時間50分)願える外国人候補者の推薦をお願いいたします。ご推薦いただきました候補者については、講演企画小委員会及び実行委員会にて検討し、採択させていただきます。なお、実行委員会では、薄謝をお支払いするのみで、渡航費用、国内滞在費等のお支払い及び接待はいたしかねますので、あらかじめお含み置き下さい。

講演日時 第90春季年会会期中(採択時に決定させていただきます)

講演時間 50分

推薦方法 応募用紙を春季年会ウェブサイトより入手し、必要事項をご記入の上、E-mailにてご応募下さい。

1. 講演候補者名・所属・役職・国名・演題(仮題)

2. 専門(なるべく詳しく)及び推薦理由
3. 略歴(年齢もお書き下さい)
4. 講演希望日(会期中で、半日単位、第3希望までお知らせ下さい。なおご希望に沿えない場合もありますのであらかじめご了承下さい。例:3月27日午後)
5. 講演会場希望(特別講演用会場もしくは一般会場)
6. 推薦者氏名及び連絡先(勤務先所在地、電話番号、FAX番号、E-mail)

締切 平成21年9月24日(木) ※以後、11月中旬までは事務局へご相談下さい。

推薦先 日本化学会 企画部 年会係
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp
電話(03)3292-6163

6. 第24回若い世代の特別講演会講演者募集

化学及び化学技術の将来は、若い世代の双肩にかかっております。本会では毎年年会の際に若い世代の研究者を励まし、次代の化学及び化学技術をさらに活性化するために標記講演会を企画し、意欲的に研究を行っている若手研究者に“特別講演”の機会を設けております。この講演に対しては、本会会長から特別講演証も贈られ、また、本誌に執筆の機会がありますので、奮ってご応募下さいますようご案内いたします。

会期 平成22年3月26日(金)～29日(月)[第90春季年会会期]

会場 第90春季年会会場[日本大学理工学部船橋キャンパス]

講演件数 選考の上、20件以内(講演時間:25分+討論5分)

応募資格 本会に1年以上在籍する40歳未満(平成21年4月1日現在)の個人会員。ただし、本会進歩賞を受賞している者の申込資格はない。

応募方法 応募用紙を春季年会ウェブサイトより入手し、必要事項をご記入の上、E-mailにてご応募下さい。

1. 講演申込書(①講演部門、②講演題目、③氏名、④生年月日、⑤会員番号、⑥所属、⑦連絡先、⑧略歴)
2. 講演内容(図表を含め2枚)
3. 講演に直接関連した発表論文リスト(学会発表、特許等を含み10件以内)
4. 申請趣旨(研究の意義と独創性を400字以内にまとめたもの)

講演部門 1. 物理化学、2. 無機・分析化学、3. 有機化学、4. 材料化学・高分子化学、5. 天然物化学・生体関連化学(医農薬を含む)、6. 複合領域(情報・計算機化学、地球化学、環境化学、資源・エネルギーを含む)

締切 平成21年9月24日(木)

応募先 日本化学会 企画部 年会係
〒101-8307 東京都千代田区神田駿河台1-5
E-mail: nenkai@chemistry.or.jp
電話(03)3292-6163